

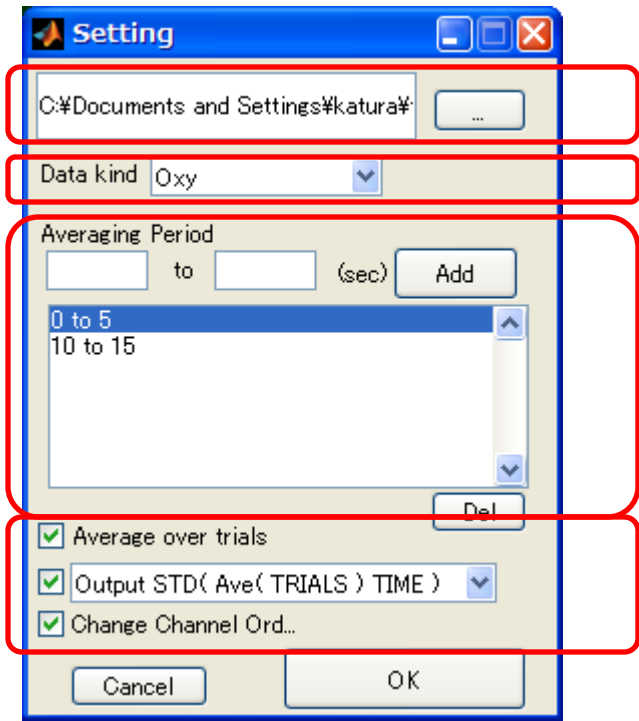
フォルダ「save」をPOTAToの中の
「PluginDir」内へコピー（上書きする）

MATLABを立上げ、POTAToのフォルダへ移動して
POTAToを起動

Filterを「All Filter」して、リストを見ると
「Save Mean Value to File 2」が追加されています。

これを「Add」すると、次の設定画面が出ます。

設定画面の説明



保存先のファイルを指定(拡張子(.txt等)も入力)

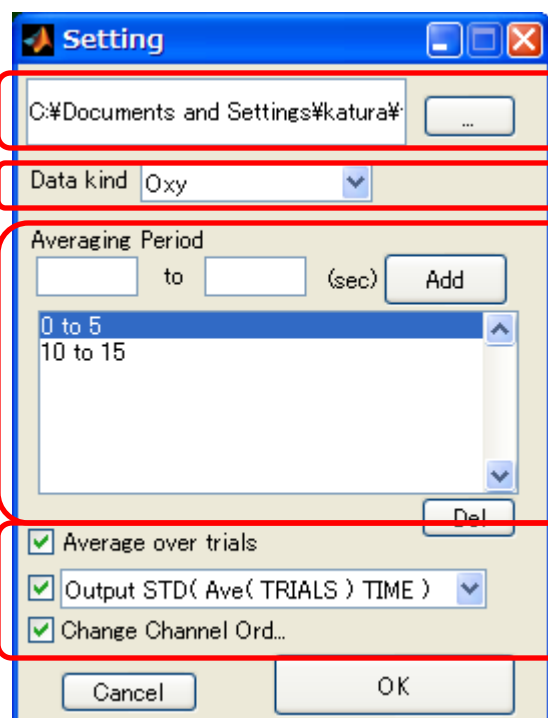
計算対象のKind(Oxy,Deoxy,Total)を指定

平均値をとる期間を指定(複数指定可能)

オプションを指定

- ①保存先のファイルを指定します。「...」ボタンで選択します。複数の光トポデータファイルに対して、同じ保存先ファイルを指定すると、平均値の結果がファイルに追加されていきます。
- ②Kindを指定します。1回の計算で一つのKindのみを算出します。他のKindも出力するには、この処理をさらに追加してください。
- ③平均値(標準偏差)をとる期間を指定します。単位は秒です。**ゼロ秒は、刺激開始ではなく、計測開始、またはブロック(トライアル)の開始を示します。**開始と終了の時刻を入力後、「Add」ボタンでリストに追加します。「Del」ボタンで消せます。

設定画面の説明



保存先のファイルを指定(拡張子(.txt等)も入力)

計算対象のKind(Oxy,Deoxy,Total)を指定

平均値をとる期間を指定(複数指定可能)

オプションを指定

④オプションの指定:

- ・Average over trials (Blocking後のみ有効): 複数トライアル間で値を平均します。通常は、各トライアル(ブロック)ごとに時間窓で平均化した値を、トライアル間で平均します。次の標準偏差計算方法が1のときは各トライアルの時系列信号を平均化した後で、指定の時間窓で平均化します。
- ・標準偏差: チェックすると標準偏差を出力します。横のリストから標準偏差の計算方法を指定します。1: トライアル間平均後、時間窓のSD。2: 時間平均後、トライアル間のSD
- ・出力するチャンネルの順番: チェックすると、入力ダイアログが出ます。出力順にチャンネル番号を入力します。例: 1,5,4,3,2,9,8,7,6,10,11,12 など

- ・設定が同じ場合は複数のファイルに同時に設定できます。
- ・設定後、このフィルタが「Blocking」の前に追加されるので、ブロック化後のデータから平均値を求めたい場合は、「Down」ボタンでBlocking以降に移動します。

全てのファイルに設定後、出力したい複数のトポデータを左のData Listから選択し、「Export WS」を押して計算を実行させます。

結果がMATLABのワークスペースに出力されますがここでは関係ありません。指定した出力ファイルが作成されているはずなので、確認してください。

